

# 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 19 年度外部評価委員会(平成 20 年 2 月 23 日) 大学別評価シート

評価者氏名	委員 1	
評価内容	京都大学評価	近畿大学評価
カリキュラム	5	5
授業・演習等	5	5
実習等	5	4
教材作成	5	4
合同プログラム	5	5
総合評価	5	5
コメント (自由記載)	<p>昨年度から講義・実習のカリキュラムの充実度は考え得る限りの最高レベルのものであると評価していた。唯一危惧していたことは、2 学年同時に教育しなければならないことで、教員の負担が増すとともに、一人一人の学生への手厚い指導ができなくなるのではないかとということであったが、教育コンテンツの充実、学会・セミナーへの参加を促すなど、学生のモチベーションを高めることに成功し、見事に克服していることは賞賛に値する。</p> <p>また、今年度で修了する第一期生の進路も適切な就職・進学先が予定されており、本プログラムは、広く社会で求められている人材を輩出していることの証ともいえる。今後とも、わが国における認定遺伝カウンセラー、コーディネータ教育のトップリーダーとして継続発展することを強く希望する。</p>	<p>昨年の評価委員会で、基礎遺伝学のカリキュラムは充実しているが、遺伝カウンセリング実習等の実践教育が専任教員がいないため不十分ではないかと指摘したが、今年度、遺伝カウンセリングを含む臨床遺伝の実践経験のある常勤教員が赴任したこと、また京都大学との合同講義を増加させたことにより、教育内容の質は大幅に改善したと考える。</p> <p>今年度で修了する第一期生の就職先も教員の多大な努力により決まったこと、また修了後も継続した支援を行なう卒業研修センターの設置を計画していることは高く評価できる。</p> <p>本プログラムの継続性についても、すでに大学としての位置づけが明確になされていることは、わが国の認定遺伝カウンセラー教育全体にとって、大きな意味がある。今後益々の発展を期待したい。</p>

評価：5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

# 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 19 年度外部評価委員会(平成 20 年 2 月 23 日) ユニット全体評価シート

評価者氏名	委員 1	
評価内容	評価	コメント
計画・実施体制	5	京都大学と近畿大学が密に連携し、充実した実施体制がとられている。京都大学において、毎週教員会議を開催し、具体的項目について教員相互の共通認識を促していることは高く評価できる。
養成手法の妥当性	5	認定遺伝カウンセラーを養成するためには遺伝医学はもちろんのこと生命科学、基礎遺伝学、臨床医学、心理学、カウンセリング学、生命倫理学などについての広範な知識と技能を身に付けた上で実際の遺伝カウンセリングの場に同席する実習を行なうことが求められる。本ユニットはこれらの教育すべき内容を網羅しており養成手法として極めて妥当である。
人材養成の有効性	5	遺伝カウンセリングの二つの要素、すなわち情報提供と心理支援の両者を同時にバランスよく行なう人材を養成することのできる極めて充実した教育プログラムが用意されている。
継続性・発展性	5	わが国に欠けている遺伝医療の中核を担う「認定遺伝カウンセラー」を継続的に輩出する本ユニットの役割は大きい。JST 終了後の体制の構築について、京都大学では本格的な準備が開始される予定であり、また近畿大学ではすでに大学として正式に位置づけられていることは大変心強い。
進捗状況	5	2 学年同時に教育するという新たな課題も、種々の取組により見事に克服しており、また、今年度で修了する第一期生の進路も適切な就職・進学先が決定している。本プログラムは、広く社会で求められている人材を輩出していることの証である。わが国の認定遺伝カウンセラー、コーディネータ教育のトップリーダーとして継続発展し続けることが、新たな課題である。

評価: 5 (とても良い)、4 (良い)、3 (どちらともいえない)、2 (あまりよくない)、1 (よくない)

## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 19 年度外部評価委員会(平成 20 年 2 月 23 日) 大学別評価シート

評価者氏名	委員 2	
評価内容	京都大学評価	近畿大学評価
カリキュラム	5	5
授業・演習等	5	4
実習等	5	5
教材作成	5	5
合同プログラム	5	5
総合評価	5	5
コメント (自由記載)	<p>遺伝カウンセラー養成をめざした2年間課程(修士課程)プログラムとしては模範となるプログラムに仕上がりがつつあると評価できる。振興調整費後のプログラム存続の態勢作りにも努力して欲しい。</p>	<p>京都大学の合同プログラムを上手に運用していると評価できるが、近畿大学独自のカラーを出した教育にも力を入れて欲しい。その意味で研修センターの実現が期待できる。近畿大学では振興調整費後の態勢作りを行なっている点が特に評価できる。</p>

評価: 5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 19 年度外部評価委員会(平成 20 年 2 月 23 日) ユニット全体評価シート

評価者氏名	委員 2	
評価内容	評価	コメント
計画・実施体制	5	初期計画から一貫して2大学協力のもとに養成プログラムの運用に努めてきたが、とくに問題なく運用されているのは初期の計画とその運用が優れているためと評価できる。
養成手法の妥当性	5	学生の学部専門性を配慮した教育方法や、シラバスの作成および学生の評価から、きめ細かな教育プログラムと教員の熱意が伺われる。
人材養成の有効性	5	今年卒業する学生の到達度からは、2年間の大学院修士課程で専門職を養成するためのモデルとなり得る教育プログラムであることが評価できる。
継続性・発展性	4	これだけの教育に必要なマンパワーや経費を考慮すると、大学独自でプログラムを維持することは負担が大きいためであるが、社会のために是非頑張りたい。
進捗状況	5	初年度の計画にそって教育プログラムは順調にでき上がりつつあると判断した。

評価: 5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 19 年度外部評価委員会(平成 20 年 2 月 23 日) 大学別評価シート

評価者氏名	委員 3	
評価内容	京都大学評価	近畿大学評価
カリキュラム	5	5
授業・演習等	5	4
実習等	5	4
教材作成	5	4
合同プログラム	5	5
総合評価	5	4
コメント (自由記載)	<p>カリキュラム、授業、演習いずれも極めて充実している。実習内容も広い領域をカバーできており、1例1例丁寧な個別指導もあり、さらに一部カウンセリング実務の経験もできる等申し分のない養成ぶりである。合同プログラムも充実している。ただ、あまりにもタイトな内容で学生が考える余裕があるのかが気がかりである。他のすべての養成校の模範となる養成内容で高く評価できる。今後さらに改良進化していくものと期待したい。</p>	<p>理工学部の中にある利点を生かした基礎遺伝学重視のカリキュラムである。演習も昨年度よりかなり改善されている。実習(陪席)では例数が限られていること、内容の偏りがあり、京大との合同プログラムに大きく依存している点が気になる。実習施設が遠隔地であったが、近畿大学内に遺伝カウンセリング室ができたことは朗報である。実習面の充実が待たれる。卒後研修センターやヒト遺伝子多様性解析センターなど、学生や修了生の学習の場が整備され始めたことは高く評価できる。</p>

評価: 5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 19 年度外部評価委員会(平成 20 年 2 月 23 日) ユニット全体評価シート

評価者氏名	委員 3	
評価内容	評価	コメント
計画・実施体制	5	京都大学と近畿大学が密に連携し、充実した計画と実施体制がとられている。また、教員相互の連携もよく、教育方針が統一されている。すべての面で京都大学の負担がやや大きすぎる嫌いがある。
養成手法の妥当性	5	遺伝医療の一翼を担う遺伝カウンセラーに必要な知識・技能・態度を養成する為に、前期にバランスのとれた講義を配し、その上でよく計画された演習や多彩な陪席実習を行い、合同プログラムで充実した症例提示や討論も体験させるなど優れた養成手法がとられている。両大学の合同養成ユニットの利点が十分に生かされている。
人材養成の有効性	5	遺伝医療を支える人材の養成は、今後のわが国の医療の発展・充実に極めて有効、有用である。狭義の遺伝病対応から生活習慣病などありふれた病気の対応や健康増進にも寄与する人材を養成している。遺伝カウンセラー養成のみでなく臨床研究コーディネーターも養成している点で大きな意義がある。
継続性・発展性	5	JST によるきわめて優れた人材養成体制がかなり整備されてきた。JST 終了後の養成体制の維持発展を目指す両校の取り組みがきわめて重要であり、すでにそれに向けた動きが開始されようとしている。関係者の一丸となった努力を期待する。
進捗状況	5	昨年度に比して、演習や実習面でかなり改善された。関係者の更なる努力が求められる。特に近畿大学での実習環境の更なる整備を期待したい。

評価：5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 19 年度外部評価委員会(平成 20 年 2 月 23 日) 大学別評価シート

評価者氏名	委員 4	
	京都大学評価	近畿大学評価
評価内容		
カリキュラム	5	5
授業・演習等	5	5
実習等	5	4
教材作成	5	5
合同プログラム	5	5
総合評価	5	5
コメント (自由記載)	恵まれた環境の中で、大変充実した内容を順調に進められたことが伺えます。	先生方のご努力と、近畿大学の特色ある学生教育はこれからも継続してほしいと思います。

評価: 5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 19 年度外部評価委員会(平成 20 年 2 月 23 日) ユニット全体評価シート

評価者氏名	委員 4	
評価内容	評価	コメント
計画・実施体制	5	2年間でこなすにはあまりに濃い内容を終了させたことが、実施体制に問題がなかったことを物語っているのではないかと思います。
養成手法の妥当性	5	現段階として、学生は十分に学び、育っていると思えますが、今後カウンセラーとして業務が遂行できているかを観ていくことで、より妥当性がはかれ、次に活かせるのではと思います。
人材養成の有効性	4	日進月歩で変化している医療現場に、必要な人材であるはずで。
継続性・発展性	4	卒業生がカウンセラーとして、学んだことをどのように活かすか、活かせるかが、今後の継続性、発展性に関わってくると思います。2年の学習がいかに濃いものであっても、複雑な相談内容に即、対応できるものではありません。卒後の指導の必要性を思います。
進捗状況	4	学内での学びそのものは順調に進んでいると伺えますが、問題は卒後、学んだ事が活かせる現場に出会えたか、ということではないかと思います。遺伝カウンセラーという職業が社会の中で確立していくために、関係者全ての努力が必要と思っています。

評価: 5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)



## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 19 年度外部評価委員会(平成 20 年 2 月 23 日) 大学別評価シート

評価者氏名	委員 5	
評価内容	京都大学評価	近畿大学評価
カリキュラム	5	4
授業・演習等	5	4
実習等	5	5
教材作成	5	5
合同プログラム	5	5
総合評価	5	4
コメント (自由記載)	<p>熱意ある教官が揃い、学生はその熱意に十分応える努力をしていると思います。学生からの満足度も非常に高く、このようなコースが日本全国に広がっていくことを期待いたします。</p>	<p>昨年度は、人を対象として大変ナイーブな問題を扱う職業である遺伝カウンセラーに必要なとされるコミュニケーションスキルに関する演習や実習が少々足りないように思われましたが、そういった点も含めて充実したプログラムになったと思います。</p>

評価: 5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 19 年度外部評価委員会(平成 20 年 2 月 23 日) ユニット全体評価シート

評価者氏名	委員 5	
評価内容	評価	コメント
計画・実施体制	5	熱意のある講師陣を集め、効果的な教育プログラムが展開されており、学生のサポート体制も十分できていると思います。
養成手法の妥当性	5	講義、演習、実習をバランス良く取り入れており、単に知識だけではなく、考える能力やコミュニケーションスキルなど、遺伝カウンセラー、臨床研究コーディネーターそれぞれが活躍する現場で必要とされる能力を十分に身につけるプログラムになっていると思います。
人材養成の有効性	5	1 期生の卒業を迎え、皆それぞれ、コースで学んだことを行かせる場に就職が決まり、人材養成は成功したといえると思います。
継続性・発展性	4	昨年度の評価で、「学生のみならず指導教官にとってもかなりハードなプログラムであり、息切れしてしまうことが少々懸念される」と書きましたが、皆、熱意を持ち続けて取り組まれていると思います。人材養成は成功しているため、今後もさらに発展していくことが期待されます。
進捗状況	5	2 年間で十分な成果を出されていると思います。

評価: 5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 19 年度外部評価委員会(平成 20 年 2 月 23 日) 大学別評価シート

評価者氏名	委員 6	
評価内容	京都大学評価	近畿大学評価
カリキュラム	5	4
授業・演習等	5	3
実習等	5	4
教材作成	5	3
合同プログラム	4	4
総合評価	5	4
コメント (自由記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年生には、講義からはじまり、後期に演習・実習を加える課程が用意され、また、2年生には、1年間の成果を踏まえ実習中心の過程が用意され、計画的な人材育成が行われている。</li> <li>・ また、教育計画を円滑に推進するため、教員間での連携も密接に行われている。</li> <li>・ 講義、実習等の教材や講義内容も、引き続き電子化が進められ、教材開発は大いに評価される。これら成果の他大学への普及、卒後研修への利用により、本学に限定されない新興分野の人材育成への活用も期待できる。</li> <li>・ 遺伝子検査の産業利用に向け、遺伝カウンセリングを事業者に教育するための教材開発も検討願いたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生の能力開発のために、講義、演習、実習が効果的に実施されている。</li> <li>・ 京大のノウハウを活用したカリキュラムの見直しが行われ、効果は上がっている。更に、教員間の連携を強化し、カリキュラム全体として一貫した教育が実施されるよう配慮願いたい。</li> <li>・ 教材開発の状況等が引き続き、明確ではない。教材開発が先行している京大の成果の活用も検討いただきたい(知財、情報セキュリティ面の問題があることも推察されますが)。</li> <li>・ 卒後研修カウンセリング、解析センターの役割を明確にしていきたい。</li> </ul>

評価: 5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 19 年度外部評価委員会(平成 20 年 2 月 23 日) ユニット全体評価シート

評価者氏名	委員 6	
評価内容	評価	コメント
計画・実施 体制	5	1, 2 年生に対して、講義から実習、論文作成等を効果的に実施するカリキュラムが用意され、また、教育計画を円滑に推進するため、教員間での連携も密接に行われている。加えて、京大では、教材や講義内容も電子化され、学生が適宜利用し、授業、実習等を効率的に習得する体制が構築されている。
養成手法の 妥当性	4	講義、実習等を組み合わせた一貫教育が行われ、また、各種学会等にも積極的に参加し、卒業後の即戦力としての人材養成がなされている。京大においては教材、アフターケア等が十分実施されている。一方、近大においては実習等の時間的な制約もあるが、さらに、教員間での連携の強化を期待したい。
人材養成の 有効性	5	遺伝カウンセラーについては、治療の対象となる単一遺伝子疾患だけではなく、将来的には、遺伝子関連検査を適切に産業利用するために必要不可欠な人材であることから、即戦力の養成が行われている本ユニットの取組は大きく期待されている。
継続性・ 発展性	5	京大においては、講義、実習等の教材や講義内容も既に電子化されており、新興分野の人材養成を行う継続性が大いに期待できる。また、開発された教材については、他大学への普及、卒後研修への利用により、本学に限定されない幅広い範囲で、新興分野の人材養成に活用されることが期待される。
進捗状況	5	卒業生も多様な分野での活躍が期待され、本ユニットでの人材養成が的確に行われていることが伺われる。特に、京大においては、計画的かつ効果的なカリキュラムが的確に実施され、かなり高い教育効果が得られていると推察される。なお、近大においては、学生の医療関係の知識不足、実習等の時間的な制約があるものの、高い教育効果が得られていると推察される。

評価：5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 19 年度外部評価委員会(平成 20 年 2 月 23 日) 大学別評価シート

評価者氏名	委員 7	
評価内容	京都大学評価	近畿大学評価
カリキュラム	5	4
授業・演習等	5	5
実習等	4	5
教材作成	5	5
合同プログラム	5	5
総合評価	5	5
コメント (自由記載)	<p>当初はカリキュラムが膨大で学生の負担が大きすぎるのではと心配していたが、第1回の修士課程修了者も無事輩出し、修了者全員が就職あるいは博士過程への進学が予定され、また学生自身からの評価も十分であり、本コースは高く評価できる。</p> <p>カリキュラムおよび実習等は近い将来を見据えて common diseases にも焦点を当てると尚充実したものになるであろう。</p>	<p>本コースが理工学研究科に設置されているためにカリキュラムが若干基礎生命科学に重点を置き過ぎている印象を受けたが、第1回の修士課程修了者も無事輩出し、修了者全員の就職が予定され、また学生自身からの評価も十分であり、全体として本コースは高く評価できる。</p> <p>カリキュラムと実習等は近い将来を見据えて common diseases にも焦点を当てると尚充実したものになるであろう。</p>

評価: 5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 19 年度外部評価委員会(平成 20 年 2 月 23 日) ユニット全体評価シート

評価者氏名	委員 7	
評価内容	評価	コメント
計画・実施体制	5	カリキュラムは当初過密な印象があったが、これまでの実施状況に鑑みて、その計画・実施体制は十分でかつ妥当であると、高く評価される。特に、両大学の密な連携と共通な認識のもとに、理想的に実施されていると考える。
養成手法の妥当性	5	遺伝カウンセラーとクリニカルリサーチコーディネータの2つの関連するが異なる人材の養成を手がけていて、その手法や教員配置などを適切に行っていることは高く評価される。
人材養成の有効性	5	第1回修士課程修了者が全員就職または進学が決定したこと、さらに遺伝子検査に付随するという限度付ではあるが、遺伝カウンセリングが保険点数化されたことと相まって、本ユニットにおける人材育成の高い有効性が証明されたと考える。
継続性・発展性	5	上記人材育成の有効性に鑑み、本ユニットの継続性の必要性が実感され、そのさらなる発展が大いに期待される。平成 22 年度からの運営経費に関する具体策を早急に考える必要がある。
進捗状況	5	本ユニットの中間評価が過日なされたが、本評価委員はその中間評価結果「B 評価」には必ずしも同意しない。すなわち、本評価委員は、本ユニットの進捗状況に対して大いに評価できる A 評価を与えたい。

評価: 5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 19 年度外部評価委員会(平成 20 年 2 月 23 日) 大学別評価シート

評価者氏名	委員 8	
評価内容	京都大学評価	近畿大学評価
カリキュラム	5	5
授業・演習等	5	5
実習等	5	5
教材作成	5	5
合同プログラム	5	5
総合評価	5	5
コメント (自由記載)	<p>教員の資質、カリキュラムの設定と内容(授業、演習、実習を含む)、教材作成、合同プログラム総てにおいてこれ以上の贅沢は望めない整備がおこなわれている。</p>	<p>臨床遺伝専門医の専任教員が4月1日に着任して、カリキュラム(授業、演習、実習を含む)が鉄壁のものとなった。近大独自の実習用機器、ネット上でテレビ会議ができるシステム等が整備され、学習効果を挙げている。合同プログラムは京都大学と共同で益々充実した内容に進化を遂げている。</p>

評価: 5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

## 「遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 19 年度外部評価委員会(平成 20 年 2 月 23 日) ユニット全体評価シート

評価者氏名	委員 8	
評価内容	評価	コメント
計画・実施体制	5	当該年度の目標に無理が無く「人材養成教育のバージョンアップ」「両のコースの統合的養成」「効率的な教育」「合同プログラムの充実」は総て達成されている。実施体制は比類なきもので、特に教員組織の充実振りは他の養成機関の追随を許さない。
養成手法の妥当性	5	充実した講義、演習・実習・特別講演に加えて京大・近大の合同プログラムとして文科省科学振興調整費(新興分野人材養成)に採択された遺伝カウンセラー・コーディネータユニットゆえのユニークな合同カンファレンスは極めて有効な教育プログラムであり、単位互換、相互評価は可能な限り実施されてその努力は敬服に値する。
人材養成の有効性	5	京大・近大ともに 19 年度に終了する学生全員が博士課程進学または就職が内定していると同った。特に就職はこれらの人材が社会に必要として受け入れられた証であり、今後も優秀な人材を育成して社会の期待に応えてもらいたい。
継続性・発展性	5	京都大学では、本プログラム実施期間終了後も、大学院医学研究科社会学系専攻全体で、本人材養成継続を支援すると公言していること、近畿大学では現在の専任スタッフにより本プログラム終了後もコースを継続実施できる体制のあることは継続発展にとって喜ばしいことである。京都大学、近畿大学関係者の一層の努力を期待する。
進捗状況	5	初年次目標、知的レベル、技能レベルの教育実践は十分に達成されている。次年次の目標は評価内容:計画・実施体制の欄で述べたごとく同様に達成された。

評価: 5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)